

2025年度(通算)第14回 名桜大学高大接続勉強会 報告書 (テーマ)「学生団体によるピア・ラーニングの実践報告」

2025年11月21日(金)、(通算)第14回名桜大学高大接続勉強会を本学学生会館(SAKURAUM)6階スカイホールAにおいて開催しました。北部地区の県立高等学校から11名、名桜大学から18名、合計29名のご参加をいただきました。

今回の勉強会は、「学生団体によるピア・ラーニングの実践報告」をテーマとして開催しました。本学に設置されている学習支援センター(LLC、MSLC、MWC)で活動する学生チューターによる実践報告を通じ、大学入学後の学習環境の変化や、学生同士の学び合い(ピア・ラーニング)がもたらす成長について共有しました。また、これらの活動を高校での進路指導や学習支援にどのように活かせるかについて、高大双方の視点から考える機会としました。

第1部:「学生団体によるピア・ラーニングの実践報告」

(報告者:名桜大学学習センター 学生チューター)

本学のリベラルアーツ機構が管轄する3つの学習センター(言語学習センター、数理学習センター、ライティングセンター)の学生チューターより、それぞれの活動内容や支援の実際について報告がありました。

1. 数理学習センター (MSLC)

報告者:新里 佳祐、安慶名 碧 (人間健康学部 他)

MSLC(Math and Science Learning Center)からは、数学や統計学に対する苦手意識を持つ学生への支援について報告がありました。「わからない」が「わかる」に変わる瞬間の喜びを共有することで、学習意欲の向上(ポジティブな循環)を生み出す取り組みが紹介されました。特に、健康情報学科との授業連携において、課題提出率や理解度が向上した具体的なデータが示され、講義だけではカバーしきれない部分を学生同士の個別支援で補うことの有効性が示されました。

2. 言語学習センター(LLC)

報告者:玉城 めい、平良 彩音、翁長 ひなの (国際学部 他)

LLC(Language Learning Center)は、外国語学習をサポートする場として、チューターが学習者(チューティー)と同じ学生目線に関わることの重要性を報告しました。授業連携による学習サポートに加え、ワークショップや留学相談など、語学への興味関心を高める多角的な取り組みが紹介されました。「先生には聞きにくいことでも、先輩になら質問しやすい」というピア・サポート特有の利点が強調され、チューター自身も指導を通じて成長している点が報告されました。

3. ライティングセンター(MWC)

報告者:金城 望愛 (人間健康学部 スポーツ健康学科 3年次)

MWC(Meio Writing Center)からは、「自立した書き手を育てる」という理念に基づいた活動報告がありました。単なる文章の添削ではなく、対話を通じて学生自身の思考を整理し、論理的な文章が書けるようサポートするプロセスが紹介されました。特に「アカデミックライティング I」などの授業課題における利用が多く、学生がチュータリングを通じて「書きたい内容が明確になった」と感じる事例や、利用者がリピーターとして定着していく様子がデータと共に示されました。



写真:第1部の様子

第2部:グループディスカッションおよび意見交換

第2部のグループセッションでは、各センターの報告を受けて「大学入学後の学習環境と学習者の学びの変化」および「高校教育への還元」を軸に活発な意見交換が行われました。グループセッションでは、地域の学生たちが、大学内で後輩学生たちのサポートに活躍する取り組みの成果を高校生にも伝えたいという意見や、学生同士の学び合いが体系化されている点に感銘を受けたとの声が聞かれました。

また、発表に参加した学生からは、議論に参加したことで、これまで気づかなかった視点での意見を通した新しい発見や、高校との交流を通し今後の連携事業の可能性を感じた、といった声が聞かれました。



写真:グループディスカッションの様子

第3部:高大接続事業に関する報告

(報告者:リベラルアーツ機構 上級准教授 高安 美智子)

会の締めくくりとして、本学の高大接続事業の現状と成果について報告がありました。

北部枠入学者の追跡調査より、入学時に基礎力に不安があっても、明確な目的意識を持ち、学習センター等の支援を活用することで、本人の努力により学修成果(GPA等)を大きく伸ばさせている実態が明らかになりました。この成長を支える要因として、eラーニングや入学前特別講座などの入学前教育が重要な「学びの入り口」として機能していることが強調され、高校側に対して合格決定後の事前指導(プログラム完遂や学習習慣維持)への協力が依頼されました。今後は、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を通じて自己調整学習ができる人材を育成するため、高校と大学がそれぞれの役割を理解し、連携を一層強化していくことの重要性が確認されました。

まとめ

今回の勉強会は、学生チューターの実践報告を核として、実際の「学生の成長」を目の当たりにする機会となりました。アンケートでは「卒業生の成長が見ることができて良かった」「名桜大学の支援体制の素晴らしさがわかった」等の感想が多数寄せられました。学生が主体となって学びを支え合う「ピア・ラーニング」の文化が、高大接続の新たな視点として共有され、高校教育から大学教育への円滑な移行を支える重要な要素であることが再確認された有意義な会となりました。

2025年11月27日(木) 文責 大兼久友香(教務部教務課 学生会館運営室)